

商店街がやさしいまちづくりを推進し、
障がい者の交流増大とともに新たな来街者を促進

社会福祉法人大分県社会福祉事業団 佐伯市大手前商業振興協同組合

機関名	社会福祉法人大分県社会福祉事業団（大分県なおみ園） 佐伯市大手前商業振興協同組合		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号（大分県社会福祉事業団） 大分県佐伯市大手町3丁目4番2号（佐伯市大手前商業振興協同組合）		
地域概要	(1)管内人口 50千人	(2)管内商店街数 12商店街	
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数 1商店街	(2)会員数 20商店	
	(3)空店舗率 25.0%	(4)大型店空き店舗数 1店	
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. <u>地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用商店街活性化事業（高齢者等交流施設）
・障がい者等交流施設「ほっぷ」の整備、運営事業
総事業費 3,798千円

【事業実施内容】

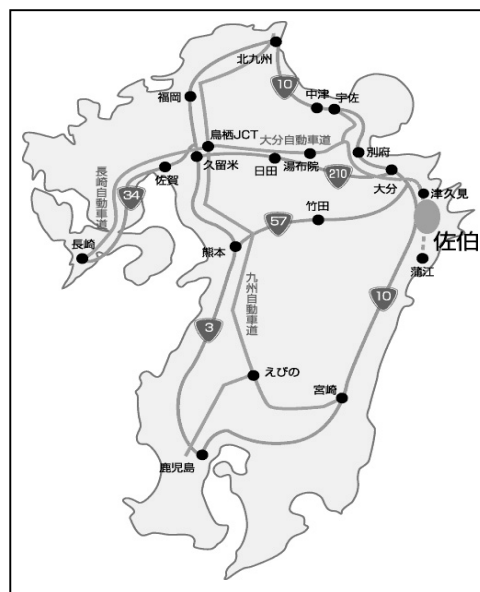
1. 背景

佐伯市は、大分県の東南部に位置し、一部は宮崎県境と接している。西部は緑豊かな山々に囲まれ、豊富な雨は、番匠川や堅田川などの清流を生んでおり、市街地はその清流の河口に広がる沖積平野の上にある。

戦後、海に向かって開けた立地環境を活用して企業誘致を進め、パルプ、セメント、合板、造船等の臨海工業地帯を形成し、海を利用した商工業都市として発展してきた。近年は、工業系の沈下が際立っているものの、依然として県南地域の中核都市としての機能を担っている。

商業環境においては、県南最大の大型店を始めとする大規模店舗の郊外への相次ぐ出店、人口の郊外への居住地域の拡散、アクセス道路・駐車場の未整備等による経営悪化のため、市の中心部の賑わいと福祉的空間を維持してきた中心商店街において廃業、休業、規模縮小による閉店が急速に進んでいる。

そのため、空き店舗を活用し、障がい者をはじめ市民が集まるコミュニティスペースを整備し商店街の活性化を図ることとした。



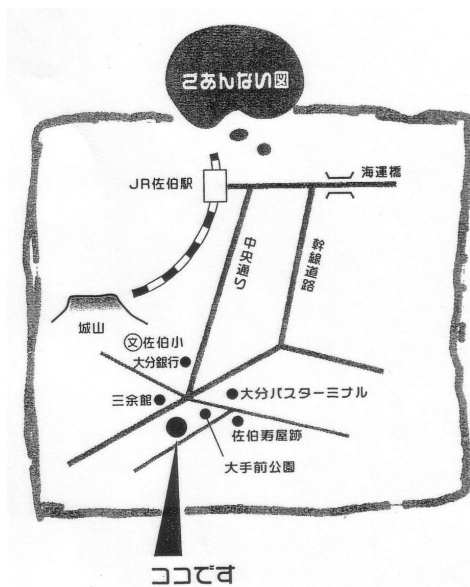
佐伯市の位置
(佐伯市役所HPより)

2. 事業内容

「やさしい街づくり」を商店街の中に普及させ、障がい者とその関係者を取り込んだ新しい街づくりを進めることにより商店街活性化の活路を見出すため、佐伯市大手前商業振興協同組合と大分県福祉事業団が共同し、空き店舗を活用した障がい者等交流施設を設置した。

(1) 事業概要

- ①施設名称 コミュニティ施設「ほっぷ」
- ②実施期間 平成15年10月7日～平成16年3月31日
- ③所在地 佐伯市大手町3-2-6
- ④規模 2階建て延べ約70㎡



ほっぷ外観

(2) 施設整備の内容

障がい者にとって利用しやすいよう、身障者用トイレの設置、段差のない床への改修、空調設備等、障がい者が気軽に安心して訪れ交流が図れる場とした。

(3) 佐伯圏域障がい者共同サポートセンターの発足

コミュニティ施設「ほっぷ」の開設と同時に、佐伯圏域に所在する7つの障がい者施設の障がい者及び職員による組織、佐伯圏域障がい者サポートセンター「人とき」を発足させ、毎月運営委員会を開催し、障がい関係の情報交換や研修の場として活用した。

(4) 交流活動の概要

① 聞ちよくれ交流会

「ほっぷ」の整備により、障がい者施設間を超えた交流が可能となり、障がい者達が自分たちの主張を発表する「聞ちよくれ交流会」を実施した。

②将棋大会の開催

同じ趣味をもつ人たちにより、将棋大会を定期的を開催した。

(5) 利用実績

【コミュニティ施設「ほっぷ」利用実績】

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人員	312人	82人	41人	161人	175人	205人	976人



「ほっぷ」開所式

【 効 果 】

1. 商店街の組織

福祉関係者の初めての商店街事業への参加により、バリアフリーなどの意識が会員にも高まり、イベントなどにも反映されるようになった。

2. 商店街の認知度

オープンに関する記事などが新聞紙面をかざり、当商店街の認知度が高まった。

3. 近隣個店への波及

施設を利用する方々が、同時に商店街組合員店の買物客となり、新たな交流が生まれた。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 商店街との連携

空き店舗に新たな仲間が加わるというだけでなく、その仲間がどのようなインパクトや刺激を持ち込んでくれるかということが重要である。

商店街は、出店者が福祉関係者であったため、始めはとまどいもあったが、コミュニケーションをとることにより乗り越えることができた。

2. 事業の合意形成

商店街事業が全組合員に等しくメリットがあるように理解してもらうことは、日常の意志の交流が必要な上に、さらに個別事業の意味を中心メンバーがきちんと把握する必要がある。

【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

今後、新たに取り組まれる皆さんには、当初の目的を常にチェックしながら、きちんと達成されているか。あわせて、方向性は間違っていないかを判断していかなければならない。つつい日頃の忙しさなどで理念を忘れてしまいがちになり、その結果、効果をなくしてしまうことにもなりかねない。